会員だより

大手前 中高 30期　河合 伸明　佳奈子

高校の修学旅行で訪れた北海道。何時間走り続けても、バスの車窓から見えるのは、一面の牧草地とそこにいる牛や馬達。札幌以外はすべて農地なのだと広い北海道を想像した。将来その地に住む事になろうとは、その時夢にも思わなかった…。

ここは、大阪から北へ1200キロ、北海道・大雪山のふもとの町、東川町。北海道第二の都市旭川の隣町で、美しい丘の風景で有名な美瑛や、テレビドラマ「北の国から」の舞台・富良野もお隣さんです。

アウトドアという言葉が一般的ではないころから、自然の中での生活が好きだった私は、田舎暮しを夢見るようになり、大阪から引越して来てもう12年が経ちます。同窓会で再会して、奈良・北海道のいわゆる遠距離恋愛の末に結婚した、妻・佳奈子も北海道生活6年目です。見るもの、聞く物すべてに驚いていた彼女もすっかりたくましくなり、近頃では少々の事ではもう驚かなくなりました。

現在離農した農家を借りて住んでいます。小さいながらも、手作り家具工房「木風舎」を営んでいます。住居の他に、納屋が2棟、薪小屋が1棟、そして畑が150坪。隣の家まで100メートル以上離れていて、1キロ四方に10戸あるかないか。見渡すと、周りは田や畑ばかりでその向こうに山々が重なって続いています。北海道サイズとでも言いましょうか、距離や広さの感覚は、ケタがひとつ違います。

もちろん自然環境には、大変恵まれています。街灯なんて無いので、夜になると満天の星空。満月の夜には、その明るさにうっとり。外に出ようと、戸をガラッと開けたらすぐそこに、エゾシカの親子がいて、お互いに驚いた事もありました。何年か前には、いつも犬と散歩に行くすぐ裏の林道に、熊が出没したことも…。買い物の往復だけで、車で1時間もかかってしまうので、基本は自給自足。夏の間、畑で採れるトマトはピューレに、キュウリはピクルスに、イチゴやブルーベリーはジャムにして保存し、ニンジンやイモは土の中に埋めておく。すると、収穫の無い冬でもおいしく楽しめるのです。

体のリズムがのんびり田舎仕様になるのでしょうか。生活だけでなく、作る家具にも影響が出てきます。凝ったデザインよりも機能を優先させて、「木風舎」の家具はシンプルで美しく。そして木の風合いを大切に。

結婚を機に、そろそろ自分の家を持ちたいと思うようになりました。その家では「木風舎」の家具を使って、ショールームとしてお客様に見ていただけるようにしようと広い北海道といえども、条件にかなう土地はそう簡単に見つかりません。がっくりしていたら、友人の卵屋さんが、「うちの土地に建てればいいっしょや」と言うのです。さすが北海道サイズです。土地も広ければ、心も広い。

まず工房と材料倉庫を先に建ててから自宅を建てるという、2年計画を立てました。2003年の春、雪解けと共に工事着工。24坪の工房と15坪の材料庫を同時平行で建てました。そして雪が積もる前に、工房だけは引越しできました。明けて2004年、自宅の工事開始。また雪が積もる前に引越し完了といきたかったのですが、残念ながら現在内装工事中。今年の夏頃には引越しできるでしょう。楽しい事も、大変だった事もすべて二人で分け合って、時には友人達に手伝ってもらって、私達の家が出来上がるのです。喜びももちろん北海道サイズです。何もかも初めての事ばかりだった工房建築の様子は、「木風舎」のホームページ http://homepage2.nifty.com/mokufusha~/で公開していますので、興味のある方は御覧になって下さい。

自宅工事のかたわら、もうひとつ新しく始めた事があります。ミツバチを飼い始めました。もちろん初めての経験ですが、なんと100キロの蜂蜜が採れました。この会報がみなさんのお手元へ届く六月には、我が家のハチたちはアカシアの蜜を集めてくれているはずです。ハチの活躍は、またの機会がありましたら、お話ししたいと思います。